



自己紹介

大淵由貴（おおぶちゆき）1988年東京都江戸川区出身。千葉大学法経学部総合政策学科卒。大学時代は環境NGOの活動に従事、また休学してバンクーバーでワーホリを経験。卒業後、電機メーカーで5年間営業を勤め、会社を退職して青年海外協力隊としてマダガスカルで活動中。

忘れないでねの贈り物

帰国前に、多くの人から贈り物をいただきました。日本だと現金を渡すこともありますが、ここはお金に余裕のない田舎町。皆色々と考えてくれました。注文していた鶏をタダにしてくれたり、手作り鍋敷き、クッション（中身を抜けるように縫い口を開けやすく工夫！写真）、ランチョンマット、手紙、サイン入り聖書（英仏独語！）。また会う日まで皆のこと忘れません♪



アンズズルベで生活改善活動は広まったか？

～2年間の成果と今後の課題～

先日、マダガスカルでの2年間の活動を終え、日本に帰国しました。通信最終号では2年間の活動を振り返りたいと思います。

*活動の要約

活動1年目(2017年11月～2018年10月):生活改善活動(SK)の説明会、かまど・料理講習会を実施し、それらを通して意欲的な農家と知り合いました。

活動2年目(2018年11月～2019年9月):知り合った農家と共に、SKの普及・促進、収入向上活動に取り組んだ結果、目覚ましい普及には至らなかったが、少数の農家がSKを理解し、それぞれの生活に取り入れています。

*活動目標と内容

大目標【生活改善アプローチを通して、生活・収入の向上を図る】

①SK(生活改善)の普及、促進

1)概念の普及:説明会や改良かまど・料理講習会を通してSKを伝えようとしたが、なかなか伝わりませんでした。その他の手段として、**活動事例ポスターをお祭りで掲示(2回)**、**配属先への報告レターを事務所に掲示(9回、写真右)**しました。



2)問題やニーズを把握する:農村を訪問し、世間話、農作業、食事などを通して相手のニーズを探りました。チーズ作り、油作り、水道ポンプ修理等、どれも**資金や技術が足りず実現できませんでした**。

3)農民のグループ作り:活動を始めるには資金が必要!ということで資金を集めるためにグループを作ることを試みました。しかし、**中心地に集まることは農家の女性にとっては負担も大きく、会議の集まりが悪く計画作りができませんでした**。そこで、それぞれの農村に訪問し、農村毎の活動を作ることにしました。

4)活動と振り返り

<改良かまど講習会>

成果、制作物講習会:12農村、18回、146名参加

かまどカタログ:かまど情報を集め、特徴を理解してもらうための説明書を作成

かまどビデオ:かまど作りの上手なマダムに協力してもらい、作り方ビデオを作成

振り返り講習会実施一年後に、改良かまどが一番広がった農村で12名にインタビュー調査を行いました。

質問	回答
①現在もかまどを利用している	はい 6名 / いいえ 6名
②かまどが壊れた時期	半年以内 2人 / 半年～1年以内 4人
③教えたことがある人	はい 6人 / いいえ 6人
④レンガのかまどを持っている:	はい 8人 / いいえ 4人

耐久性:概ね**半年～1年程度**は期待できます。1年以上持たせるには、材料選び、作り方に気を付ける必要があります。**利便性**:レンガかまど(*)のない全ての家庭で1年後の現在も継続して改良かまどの使用が確認できました。**普及性**:居住地は関係なく、**家族・親戚に教える傾向**にあります。

*レンガとセメントでつくったかまど。改良かまどよりも耐久性が高い。

＜販売活動＞**成果**地域の祭りを利用してケーキやシチューを販売しました。事前に料理講習を実施し、原価計算や売価の設定も行いました。右の表はとある学校の売り上げ一例です。利益率 50%を目指しましたが、**ケーキがふくらまなくて期待通りに切り分けられなかったり、切り間違えたり、**利益率は 40%を割る程度に終わりました。売価を

ケーキ販売@EPP Ampilanonana					
種類	単価	制作個数	売上	原価	販売利益
にんじんケーキ	2,000	2	4,000	2,200	1,800
	100	24	2,400	1,600	800
バナナケーキ	100	34	3,400	2,200	1,200
ラヴイトウケーキ	100	34	3,400	1,800	1,600
オレンジケーキ	100	34	3,400	1,800	1,600
スモモケーキ	100	24	2,400	2,100	300
(単位はアリアリ)		152	19,000	11,700	7,300



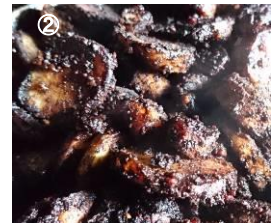
あげたいところですが、**ライバルのお菓子が同価格で**

ケーキよりもボリュームがあるので売価を上げる判断には至りませんでした。

振り返り自主的な販売活動がいくつか見られました。共通点としては**原価が低く費用回収が容易なものを実施**していました。例えば豆乳は大豆と砂糖と水だけで作れるため、原価の回収が容易です。かまどの販売も見られました。とあるマダムは1年間受注生産を続け、20個販売しました。(写真①)

＜料理講習会＞**成果**講習会：10 農村、22 回、186 名参加。料理講習は参加者と楽しい時間を過ごせます。栄養素を説明したり、調理方法を紹介することで、**日々の生活に少しでも反映されることを期待しています。**

振り返り**新たな食材、新たな味付けにチャレンジ**する農家さんが見られました。(写真②は大学芋に醤油の代わりにきなこをからめたもの。)



②収入向上活動

＜家計簿指導、養豚支援＞**記録を付け、感覚ではなく数字で把握する**



関係性ができていた農家さんに家計簿のメリットを説明したところ、実践してくれました。彼女はしばらく家計簿をつけた後で「養豚をしたいけれど子豚の購入費用が不足しているので支援をしてほしい」と、家計簿を見せながら相談がありました。そこで飼育に必要な物を書き出して予算を作り、不足分はボランティアが貸しました。成長した豚を販売後に**実際にかかった費用と予算の差異や、次回の養豚で利益を大きくする方法**について意見交換を行いました。一回一匹の養豚で全額返済はできませんでしたが、現金と農作物で 1/4 を返してもらいました。現在、豚の雌雄を飼育し**子豚の販売**を目指しています。(写真③は実際の家計簿)

* 結論：SK をアンズズルベで普及できたか？

少数ですが SK を理解し、日々行動に移してくれている農家さんがいます。かまどと料理の講習会は誰でも参加できるきっかけの場となりました。SK は急速には普及しませんが、少しずつ広まり、改善の実感を得たり、面白いと感じてくれている人々がいます。

* 今後の方向性：場所も活動の内容も、その時のニーズに合わせて臨機応変に対応する

活動パートナーは配属先職員にこだわらず、農家さんと一緒に活動できる人を早い段階で意識して探すのが良いと思います。活動の方向性として、①生活改善の考え方や活動の普及にはかまどや料理講習をきっかけ作りに利用し、**やる気のある人と活動を深めていく**②収入向上活動はお金がまわるサイクルが長いので、アイデアがあれば**早めの段階で取り組む**こと、の2つを提案します。

*** 終わりに** 2年間、本当に多くの人に支えながら楽しくアンズズルベで活動することができました。帰国間際にはご飯に招待されたり、お土産をいただいたり……私もアンズズルベの一員であったと感じさせてくれました。何か変わったかも知れないし、何も変わらなかったかも知れない。協力隊活動の結果は何年後かに自分の目で見に行けたらと思います。最後まで通信を読んでもらった皆さまにも感謝を申し上げますとともに、アンズズルベが少しずつ豊になることを願って、通信を終わりにしたいと思います。2年間どうもありがとうございました。(右の写真は何度も眺めたアンズズルベの田んぼです。)

